

# 地震と仙台城の修復

仙台市博物館 学芸企画室 佐々木 徹

## 第4回

### 仙台城と地震

仙台城は、仙台藩初代藩主・伊達政宗が慶長六年（一六〇二）に築城を開始して以降、地震や大雨、火災などの災害にたびたび見舞われてきました。

なかでも地震は、建物だけでなく石垣や土塁・堀などにも大きな被害をもたらしました。記録に残るだけでも元和二年（一六一六）から文久元年（一八六一）まで、計二一回を数えます。

### 被災・修復状況の諸相

仙台城は、地震で被害を受けるたびに修復工事を行い、復旧されてきました。

例えば正保三年（一六四六）の地震では、大手門や本丸の石垣が数十丈（二丈は約三メートル）も崩れ、本丸の三階櫓が三棟倒壊、そのほかにも土塁・堀・門など、破損箇所が多く出たようです。諸藩の大名は城の修復にあたって事前に江戸幕府へ届け出て、許可を得る必要がありました。そこで仙台藩では翌年に破損箇所を明示した「修復伺絵図」などを幕府へ提出し、無事許可されています。ただしこの時、本丸の櫓などは再建されておらず、被災したか

らといって、すべてが修復対象となっていたわけではありませんでした。

享保一六年（一七三二）の地震では、本丸大広間の壁や二の丸の堀などが少し破損しています。この時の「震勢」は白石の方が仙台より大きかったといい、白石城の堀や石垣は損壊し、米倉が崩落するといった大きな被害が出ています。

修復には当然、莫大な費用が掛かりました。文久元年の地震では、仙台城が被害を受けたため、幕府に対して三万両の借金を申し出て許されています。

### 石垣築造技術の向上

現存する仙台城本丸跡北壁の石垣は、平成一〇年（一九九八）から始まった解体修理に伴う発掘調査により、元和二年と



仙台城修復伺絵図 寛文8年(1668) 仙台市博物館蔵

寛文八年（一六六八）の地震で大きく崩壊したことが判明しています。しかも、それぞれの修復工事のたびに、石垣の築造技術を向上させたことも分かっています。

特に注目されるのは後者の修復工事です。表面の石積みには、四角錐状に切り揃えた石材（切石）を用い、その背面に小さな石を大量に詰め込んで、排水性とともに柔軟性を持たせています。さらにその背面の盛り土層には、階段状の石列を土留めに並べ、地下排水路も複数設けるなどして、地盤（土台）の強化も図られています。寛文八年の「修復伺絵図」（左上の写真）によれば、北壁石垣のほぼすべてが崩落していますが、この修復工事以後は三〇〇年以上も崩落しておらず、その技術水準の高さを示しています。

平成の解体修理では、こうした伝統工法を生かしながら、さらに補強対策が取られ、その後に発生した東日本大震災でも崩れることはありませんでした。その壮麗な様子は、さまざまな震災を乗り越えた証でもあります。



解体修理後の仙台城本丸跡北壁石垣 写真提供：仙台市教育委員会

## 仙台市史

全32巻

市制100周年記念事業として編さんが行われた仙台市史は、原始から平成元年に仙台が政令指定都市となるまでの事象をあつかい、最新の研究成果を盛り込んだ内容になっています。

「通史編」9巻のほか、古代から現代までの歴史資料で構成される「資料編」13巻、特定のテーマを詳しく掘り下げた「特別編」9巻に、「年表・索引」1巻を加え、全32巻が刊行されています。仙台市史を通して、仙台市の歴史に思いをはせてみませんか。

購入方法等は博物館HPをご覧ください。



- 通史編** 原始、古代中世、近世1~3、近代1・2、現代1・2
- 資料編** 古代中世、近世1~3、近代現代1~4、仙台藩の文学芸能、伊達政宗文書2~4（伊達政宗文書1は完売）
- 特別編** 自然、美術工芸、市民生活、板碑、民俗、城館、慶長遣欧使節、地域誌（考古資料は完売）

### 臨時休館のお知らせ

仙台市博物館は、2月13日の地震による施設設備の点検・修繕等のため、臨時休館しています。

利用者の皆さまには、ご迷惑をおかけして申し訳ございません。

再開館の日程が決まり次第、当館のホームページや公式ツイッターなどでお知らせいたします。

仙台市博物館  
SENDAI CITY MUSEUM

▶博物館ホームページ  
▶博物館ツイッター

仙台市博物館  
@sendai\_shihaku

検索

※開館状況など最新の情報は、博物館ホームページをご覧ください。

〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地(仙台城三の丸跡) TEL: 022-225-3074